

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3090100482		
法人名	セントケア和歌山株式会社		
事業所名(ユニット名)	セントケアホーム中之島 1階		
所在地	和歌山市中之島380-1		
自己評価作成日	平成24年6月10日	評価結果市町村受理日	平成24年8月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 和歌山県社会福祉協議会		
所在地	和歌山県和歌山市手平二丁目1-2		
訪問調査日	平成24年6月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

認知症ケアとして、くもん学習療法を取り入れており、認知症の進行予防、およびBPSD症状の軽減を狙いとしながら、お客様とのコミュニケーションの時間としてたいせつにしています。
ご家族や知人の方の来訪も多く、お客様とゆっくりと過ごしていただけるように努めています。
キッチン専門スタッフを配置することで、手厚いケアができるようにし、お客様から片時もめを話さず安全に安心し、寄り添うケアができるように努めています。また、食にもこだわりをもち、栄養管理されたメニューを提供し健康管理に努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

災害対策などは事業部門が担当するなど、ケア部門以外の専門分野も持つ民間会社が運営する事業所ならではの利点と特徴が活かされている。声かけは氏名を基本としているが、利用者の呼称を「お客様」と言い、表記することからも“居心地の良さを追求する”経営目標の一端が伺える。居室の設備でエアコンと洗面部分だけが用意されており、他の備品は入居者が自由に持ち込む方式は、在宅で過ごされた時代の延長の味わいがある。また共用部分をゆったりとした感じのレイアウトとブラウンで統一した設計が自然感溢れるスッキリ感で心地良さを演出している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆっったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日、朝礼で経営方針書を朗読し、グループの理念・方針を共有しています。また、ホームの理念「居心地の良さを追求する」ことについて、定例会議などで検討している。	10項目の運営指針があり、毎日の朝礼でスタッフが確認している。日々のケア方針の他に経営目標や現況も示され、事業所全体の理念徹底と意識の向上・実践に努めている。毎月1回全員による会議で再確認し、理念の共有を計っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の方との挨拶をたいせつにし、地域の掃除には参加している。	地域での日常的な交流の下地づくりとして、近隣との挨拶を大切に、周辺の一斉清掃などにも積極的に参加している。また散歩や外出時を地域とのふれあいの機会と捉え、近くの量販店や商店などとも顔見知りになるように努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議では事例としてお客様の状態とケアに関し報告を行っています。また、地域の一員と生活できるように外出の支援を行い地域の方々への理解を深めています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、日々のケアの報告などを行い、特にレクリエーションについて出た意見は、積極的に取り組んでいます。	利用者の現況(人数、平均介護度)や、ドライブ・合同遠足・買い物などの日常活動を報告している。要望が多い外出支援の実現にも努め、いただいた助言はサービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には、地域包括支援センターの方にも参加して頂いており、ホームの状況報告しておりますので、情報は共有できています。	介護保険関連の申請時や運営相談などの機会も活かして、協力関係を密に保つよう努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	グループの理念である「お客様第一主義」を徹底し、寄り添うケアを実践しながら身体拘束をしないケアに取り組んでいます。	玄関の施錠は夜間のみ行い、日中は出入り自由である。外部研修には代表者が出席し、研修内容はスタッフ全員に伝達しており、正しい理解に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者及びスタッフは研修にて虐待防止について学びます。また、ケアカンファレンスのなかで、自分たちのケアが虐待につながっていないか確認を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見人制度を利用されている方がおり、支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約までのご本人やご家族との面談を行い、不安などを解消できるよう説明しご理解を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	お客様の日々の状態を細かく観察し、小さな変化も見落とすことがないように十分注意しています。ご家族とは連絡を密に行い、コミュニケーションを図り、実践に取り込めるようにしています。	寄り添うケアに合わせ、ご家族が面会に来所された時に要望を聴くように努めている。また遠方で面会の機会が少ないケースには毎月発行の「ホームたより」の送付や電話でのサポートをしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議やフロアミーティングで職員の意見を聞く機会を設け、またその他にも個々の面談の機会を設け意見や提案を聞くようにしています。	全体会議で意見聴取をする機会を設けている。また、月2回のフロアミーティングではより細やかな意見具申が出来ている。提案した意見のその後の経過チェックも行われて反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々に面談の機会をつくり、スタッフの今の思いを把握し、やりがいを感じながら働ける様環境整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	弊社の助成金制度を活用し、無資格者にはHH2級の資格取得を進めている。また、外部への研修も積極的に勧めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ネットワークなどへの参加はしていないが、営業時などに情報交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	環境の変化に伴う戸惑いを軽減できるよう、ご入居前の面談を頻回に行ったり、一日体験ができることをお伝えし、安心を確保しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご入居までに面談を重ね、ご家族の不安要素を解決できるようにお話を聞く機会をたいせつにしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族との面談のなかで、サービス利用の本質を把握し、今必要なサービスを検討しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「お客様第一主義」「寄り添うケア」を徹底し、ご本人のペースで生活ができるように支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族との連絡を密に行い、ご家族とご本人様がよりよい関係でいられるように支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時間は夜間を除いて自由にしており、交友関係が継続できるように努めている。また、外出や外泊も可能な限りしていただいています。	家族が遠方のケースで、入居前に長年居住していた自宅や自宅周辺に是非行ってみたいという希望に添ってスタッフが同行しての外出支援をするなど、個別対応にも取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お客様同士がコミュニケーションを深められるよう、スタッフが架け橋となりながらレクリエーションはじめ会話などをおこなっています。そんな中からお互いに励ます会話などが生まれています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	関係性は大切にしているが、相談や支援につながる事例は現在のところありません。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のコミュニケーションの中から、お客様の今の思いを把握し、今の思いに沿った生活が送れるようにしています。	「誰かが」ではなく「私が」しますという経営目標の一つでもある理念を実践し、スタッフが積極的に寄り添い、日常の言葉や会話では表せない部分の好みや意向、想いの把握にも努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	メモリーブックを使用し、今までの生活を把握しています。また、ケアマネジャーとも連絡を密に行い、今までの生活を把握できるように努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	できること・できないことシートを活用し、有していっしょる能力を把握できるようにつとめています。また、毎月リスク把握シートを記入しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族はもちろん、主治医や訪問看護との連絡を密に行い、お客様本位のケアができるよう介護計画を作成している。	経営目標の一つでもある「医療との連携を密にする」に沿って、本人や家族の意向など考慮しつつ、毎月1回の主治医の往診や、併設の訪問看護部門とも連携し、居心地のよさを追求する計画とモニタリングを実践している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活状況を日常生活記録に記載し、小さな変化などを共有できるようにし、介護計画の見直しの際に活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要に応じ、通院の介助や医療機関の紹介を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議にて地域の情報を把握し、ご本人にあった資源をご利用できるように支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人の希望にそった受診ができるように支援しています。	本人や家族の希望での、かかりつけ医への受診は家族が対応するケースが多いが、必要に応じて受診のサポートを行っている。家族だけで受診した場合は結果報告を受け、その後の経過をチェックしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回訪問看護師の訪問があり、その際にお客様の状態を報告・指示をあおいでいます。また、24時間の連絡体制をとっており、些細なことでも相談しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際には、こまめに訪問し状態の把握に努めている。また、普段から定期的に訪問し、関係づくりに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご入居のときに、看取りに関する考えをお聞きしており、その際にはホームとしてのできる事を説明し、ご理解を得ている。	入居時に家族の意向を十分に聴き、事業所運営規程の[重度化した場合の対応に係る指針]や[看取りに関する指針]に基づいて説明し、話し合いを行っている。医療機関や関係先と連携してチームでサポートする方針を共有し理解を確認している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な研修を行い、朝礼時にはCPR呼称を行い、皆が対応できるようにしています。また、消防署でのCPR研修にも参加しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に災害訓練を受け、また運営推進会議でも避難場所やそこまでのルートを確認、備蓄品の把握などを行っています。	事業所内の専門部署が担当しており安心感がある。災害時を想定しての備蓄品リストがあり保管倉庫の整理整頓や、事業所内外の危険場所のチェックを行っている。避難場所は近くにあり、地域の民生委員等との協力体制も期待出来る状況にある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	パブリックスペースではお客様の状態の話などはしないことを徹底し、お一人お一人の人格やプライドを尊重できるよう、言葉使いや行動に注意を図っています。	日頃のケアを通して本人の気持ちや好みをよく理解しており、自己決定しやすい言葉づかいを心掛けている。また、パブリックスペースでは特にプライバシーの確保に努め、スタッフ全員が留意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	お客様が選択できるような言葉かけを心掛けています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課に関する言葉かけにしても、お客様が選択できるように意識し、ご本人が過ごしたいように過ごせるよう支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	今までの好みなどを考慮しながら、TPOに合わせて身だしなみやおしゃれを楽しめるように支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備を一緒にすることは少ないが、お客様がご自分の分を下膳してくれたりしています。	厨房専門職が栄養面も考慮した食事づくりを担当している。食事前の燕下体操が立派な共同作業となっており、スタッフのサポートで下膳したり、他の人に寄り添うなどの気遣いが伺える。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の状態に合わせて、量や形態を工夫し必要な栄養がバランスよく摂取できるように支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行い、ご自分でできるかたも磨き残しがないか確認をおこなっている。また、必要に応じ、訪問歯科や歯科衛生士による口腔ケアも行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を作成し、ご本人の排泄パターンを把握し、トイレで気持ちよく排泄できるように支援しています。	水分・排泄チェック表で習慣や日常の行動パターンを把握しており、早い目の誘導をすることで失禁や混乱の軽減に努めている。トイレの場所が理解出来なくて混乱したケースがあったが改善されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量の把握をし、便秘にならないように努めている。また、臥床している時間が多くなるように、レクリエーションプログラムに体操を積極的に取り入れています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に合わせた支援をしている	ゆったりと気持ちよく入浴できるように支援しており、個々に合わせた入浴支援を行っています。	入浴時間帯は事業所のスケジュールの段取りではなく、在宅での入浴の多くは午後～という一般的な習慣を考慮して、原則的には午後からの入浴としている。時間帯もその日の希望に添えるように配慮し、固定はしていない。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	今までの生活習慣を大切に、安心して生活できるように支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	使用しているお薬の量や副作用の一覧表を作成しており、全員が把握できるようにしています。また、薬の変更があった時には申し送りを行い、変化がないか確認をしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の状態に合わせ、出来ることを引き出しながらやりがいを感じていただけるように支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援	その日のご希望とはなかなかいかないが、ご本人と相談しスケジュールを立てて外出できるよう支援します。	本人や家族の意向を考慮して、日常的な近隣への散歩や外出、季節的なイベントに合わせての比較的遠方への外出など支援に取り組んでいる。花見などでは家族や訪問先商店の協力も得て、団体バスツアーのような雰囲気も楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持している方はほとんどいらっしゃらないが、買い物や外食の際にはできるだけご自分で支払ができるように支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望されるときには、電話が出来るように支援している。また、ご家族にもこちらからお電話することがあることをご理解いただいています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ブラウンを基調とし、ゆったりとできるような環境整備を行っている。また、植物は本物にこだわり、変化をお客様に感じていただいている。	廊下や食堂などの共用空間は、過度の飾り付けや物も配置することなく、不必要に五感を刺激しないような統一したスッキリ感を醸し出す設計がされている。食器類も陶器を使用したり、生木の植え込みが見えるなど心地良く過ごせる工夫がされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事の席は決まっているが、食事以外はご自由に過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人やご家族と相談しながら、ご本人が安心して生活が送れるよう工夫をしている。	もともと居室に用意されている設備は洗面とエアコンだけであり、他の必要備品は各自持ち込みという形が活きており、使い慣れた馴染みの物や、思い出の品々の中での生活は、共有部分とマッチしたスッキリ感がある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	車イスでも対応できるようトイレを広くしたり、浴室の手すりを多くつけるなどで、安全かつできるだけ自立できた生活ができるように工夫しています。		